

大規模災害に備える

ぼうさい こくたい - 2018 -

みんなの連携の輪を地域で強くする

同時開催:
東京都
「防災展」



そなエリア
ヘリポート

屋外展示

東京都
「防災展」

東京ビッグサイト
会議棟7階8階

セッション・プレゼンブース・
ポスターセッション

無料
シャトルバス
「1Fバス
ターミナル」

そなエリア
本部棟

プレゼンブース・
ポスターセッション

無料
シャトルバス
「入口駐車場」

そなエリア
エントランス

テントブース

開催期間中
無料シャトルバス運行中!

約15分
間隔で運行

2018/
10/13 土 10:00~18:00 • **14** 日 10:00~16:00

主催:防災推進国民大会2018実行委員会 (内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議)
共催:国営東京臨海広域防災公園

<http://bosai-kokutai.jp/>

ぼうさいこくたい

検索



東京ビッグサイト

10/13 土

そなエリア

10/14 日

ビッグサイト発	そなエリア発	ビッグサイト発	そなエリア発
11:00	11:00	11:00	11:00
11:30	11:30	11:30	11:30
12:00	12:00	12:00	12:00
休憩	休憩	休憩	休憩
13:15	13:15	13:15	13:15
13:45	13:45	13:45	13:45
14:15	14:15	14:15	14:15
14:45	14:45	14:45	14:45
15:15	15:15	15:15	15:15
15:45	15:45		
16:15	16:15		
16:45	16:45		
17:15	17:15		



10月13日 土 10:00～12:00

オープニングセッション

主催:実行委員会

オープニングでは、大会の開会に当たり、主催者代表及び各分野を代表する論者から、大会への期待や議論の方向性をお話いただきます。昨今発生した様々な災害の教訓を踏まえ、南海トラフ地震や首都直下地震など広域大規模災害では産官学連携したオールジャパンでの対応が不可欠であり、事前の段階から十分な連携・協働体制の構築が必要であること、また、こうした体制構築に向けた論点や課題について議論します。

開会宣言 10:00～10:05

内閣府防災担当大臣(予定)

主催挨拶 10:05～10:10

秋本 敏文 防災推進国民会議 副議長
公益財団法人 日本消防協会 会長
一般財団法人 日本防火・防災協会 会長

開催都市挨拶 10:10～10:15

小池 百合子 東京都知事

ハイレベル・パネルディスカッション「みんなの連携の輪を地域で強くする」 10:15～12:00

ファシリテーター 田中 淳 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター センター長・教授

パネリスト 新原 芳明 呉市長
山田 隆持 東京商工会議所 災害対策委員長
(株)NTTドコモ シニアアドバイザー
渋谷 篤男 社会福祉法人 中央共同募金会 常務理事
石渡 廣一 UR都市機構 副理事長
松本 浩司 NHK解説委員
海堀 安喜 内閣府政策統括官(防災担当)

10月14日 日 12:00～13:30

セッション

東京スペシャル ～首都直下地震に備える～

主催:内閣府、東京都

30年以内に70%の確率でM7級が発生するとされる首都直下地震。政治・行政・経済の中枢が高度に集積し人口・建築物が密集する東京が被災し、首都機能が麻痺することによる影響は計り知れません。その時に備えて官民でどのような取組を行っているのか、今後何をすべきか。東京オリンピック・パラリンピックを2年後に控えた今、経済界、学术界、メディア、行政など各層の有識者が様々な角度から議論します。

モデレーター 林 春男 防災科学技術研究所 理事長

パネリスト 平田 直 東京大学 地震研究所
久保田 啓介 日本経済新聞社 編集委員兼論説委員
田邊 揮司良 東京都危機管理監
鎌田 長明 日本青年会議所 会頭

司会 石垣 和子 内閣府政策統括官(防災担当)付
企画官(普及啓発・連携担当)

10月14日 日 13:45~15:30

クロージングセッション

主催:実行委員会

クロージングでは、大会の締めくくりとして、大会テーマ「みんなの連携の輪を地域で強くする」に沿った2日間計35セッションから「ぼうさいこくたい2018」の成果発表した上で、大会を振り返り、次回大会に向けた期待を語ります。

防災アーティストによるプレクロージング

13:45~14:00

プレゼンター Bloom Works
くまモン くまもとサプライズ特命全権大使

「ぼうさいこくたい2018」の成果発表

14:00~14:15

プレゼンター 池上 三喜子 市民防災研究所理事

ディスカッサント 出展団体代表 (団体名:逃げ地図) 加藤 敦基 明治大学大学院生
本間 研一 明治大学大学院生
内田 俊太 明治大学学生
永山 葵 明治大学学生

パネルディスカッション

14:15~15:10

モデレーター 福和 伸夫 名古屋大学減災連携研究センター長

パネリスト 加藤 孝明 東京大学
生産技術研究所・都市基盤安全工学国際研究センター准教授
鎌田 久美子 日本看護協会 常任理事
栗田 暢之 JVOAD代表理事
堀 乙彦 日本赤十字社 救護・福祉部長
米田 雅子 防災学術連携体代表幹事
高橋 輝 仙台市防災環境都市・震災復興室長

次回大会会場の発表

15:10~15:20

宇田川 智弘 防災推進協議会委員長 損保協会部長

閉会挨拶

15:20~15:30

田邊 揮司良 東京都危機管理監
米澤 健 内閣府大臣官房審議官(防災担当)

10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
	オープニング		あつてよかった!みんなの地区防		国際防災の日 記念セッション ～国際的な「協働」を探る～		シンポジウム「あなたが知りたい 防災科学の最前線―首都直下地震に備える―」		
			災害からあなたを守る 科学技術との対話		事業継続普及セミナー ～実効性のある事業継続(BC)に向けて～		多様性のある地域の防災は、 何がイイ		
			首都直下地震 何が分かって、何が分からないのか。 皆さんの疑問にトコトンお答えします		専門家によるディスカッション&演芸で 「首都直下地震」などへの対策を考えよう! ～防災啓発や防災教育、地震保険などの備えの重要性について～		大規模水害から逃げ切る ～大規模・広域避難への対応～		
			サッカーが防災・ 震災復興のためにできること		訪日外国人も安心! 災害・防災情報伝達の最新状況		みんなの減災 戦略会議		
			企業における地震直後の ハザード・リスク情報活用のあり方		多様な災害からの逃げ地づくりを通した 世代間・地域間の リスクコミュニケーションの促進		災害に強いまちづくり ～URの取り組み事例から見る、 災害に強いまちづくりの進め方～		

国際会議場〈会議棟7階〉

12:30～14:00

あつてよかった!みんなの地区防

地域・共助教育ジェンダー・多様性

■主催:内閣府 ■ファシリテーター:加藤孝明(東京大学 生産技術研究所・都市基盤安全工学国際研究センター准教授) ■パネリスト:磯田千雅子(香川大学ICEMS地域強靱化研究センター特任准教授)/阪本真由美(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授)/鍵屋一(跡見学園女子大学観光コミュニケーション学部教授)/岡崎市 防災課/松山市 地域防災課/佐谷説子(内閣府政策統括官(防災担当) 付 参事官(普及啓発・連携担当))/■司会:山口修彦(内閣府政策統括官(防災担当) 付 参事官(普及啓発・連携担当) 付 参事官(補佐))

地区防って何だろう?演劇で言えばシナリオ、海外旅行で言えば旅行前の旅前計画。ショートーム・ピーやディスカッション等を通じ、災害時の住民による避難行動について楽しく学びましょう。

701+702〈会議棟7階〉

12:30～14:00

災害からあなたを守る科学技術との対話

科学・技術防災行政国際

■主催:日本学術会議 ■ファシリテーター:小池俊雄(水災害 リスクマネジメント国際センター(ICCHARM)センター長)/寶賢(京都大学 教授)/川崎昭知(東京大学 特任教授) ■パネリスト:喜連川優(国立情報科学研究所 所長)/清原慶子(東京都三鷹市長)/西川智(名古屋大学減災連携研究センター 教授)/池上三喜子(市民防災 公益財団法人 市民防災研究所 理事)

科学技術が生み出す知見や情報をうまく使えば、あなたの生命・財産を災害から守ることにつながるかもしれません。とりわけ近年の情報通信技術(ITC)の発達には目覚まし、防災・減災に関する行政機関や市民団体と科学技術分野が、ITCを用いて「対話」することが可能となっています。ITCの最先端のリーダーと、行政・市民団体・学術分野の代表が熱く語りま。災害からあなたを守る未来の姿と一緒に考えてみましょう。

703〈会議棟7階〉

12:30～14:00

首都直下地震 何が分かって、何が分からないのか。
皆さんの疑問にトコお答えします

地震・火山

■主催:(公社)日本地震学会 ■パネリスト:山岡耕春(名古屋大学地震火山研究所 教授 日本地震学会会長)/平田直(東京大学地震研究所 教授 地震学会代議員)/青木元(気象庁予知情報課長 地震学会会員)/中川和之(時事通信社解説委員 地震学会理事)

いつ起きてもおかしくないと言われる首都直下地震。よく聞く言葉ですが、その地震はどこで起きるのか、起きたらどんなことが起きてしまうのか、そもそもどうして地震が起きてしまうのか、などなど、首都直下地震の第一人者が、分かっていることや、分かっていないことも含めて、できるだけわかりやすく説明し、皆さんの疑問に丁寧に答えします。

801〈会議棟8階〉

12:30～14:00

サッカーが防災・震災復興のためにできること

自助地域・共助復旧・復興

■主催:social football COLO ■司会:葛西優香(株式会社 HITOTOWA) ■上田栄治(株式会社グレイッシュ 代表取締役副社長)/鈴木康(川崎フロンターレ スポンサー・セールスグループ グループ長)/藤村昇司(リーグ社会連携本部 部長)/津村翔士(株式会社 HITOTOWA)

socialfootball COLOは、チャリティフィットサルイベント(震災復興)やサッカー防災・ディフェンス・アクション(防災減災)の取り組みを推進してきました。今回のぼうやにしたいは、震災復興の取組に最前線で行ってきたリーグ・クラブの方をゲストにお招きし、大災害に対して、サッカーが今まで果たしてきた役割とこれから果たしていくべき社会的役割について皆さまと一緒に考えていきます。

802〈会議棟8階〉

12:30～14:00

企業における地震直後の
ハザード・リスク情報活用へのあり方

災害情報被災者支援防災産業

■主催:日本防災産業会議 ■藤原広行(国立研究開発法人防災科学技術研究所 レジリエンス防災 減災研究推進センター センター長) ■モデレーター:能島暢博(岐阜大学 工学 教授 地域減災研究センター センター長) ■パネリスト:永田茂(鹿島建設株式会社 技術研究所 都市防災 風環境グループ 上席研究員)/佐藤誠(株式会社構造計画研究所 公共企画マーケティング部長)/大澤慎一(文化シヤッター株式会社 常務執行役員 新事業 特需事業部長)

日本防災産業会議企業はリアルタイム地震・防災情報利用協議会(REIC)を通じて、防災科学技術研究所から配信される地震に関する建物被害、人的被害の推計を受信し、自社およびサプライヤーのBCPに活用しています。本セッションでは早期の被災状況把握の必要性や、こうした仕組みを社会実装する意味について発信していきます。

国際会議場〈会議棟7階〉

14:30～16:00

国際防災の日 記念セッション
～国際的な「協働」を探る～

ボランティア国際

■主催:内閣府 ■モデレーター:小池俊雄(国立研究開発法人 土庫研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター長) ■パネリスト:カマル・キシュ(インド国家防災庁理事)/グランドリン・パン(国際赤十字・赤新月社連盟東アジア事務所長)/近藤哲生(国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所 駐日代表) ■ディスカッション:鈴木弘二(アジア防災センター 所長)/佐谷説子(内閣府政策統括官(防災担当) 付 参事官(普及啓発・連携担当))

大規模災害は世界的な現象です。ハリケーン・ハービー等多くのハリケーンや、洪水、地すべり、熱波、地震等により、多くの人的・経済的損害が発生しています。このなかで、国際社会は、各国の制度・災害経験の差異・経済状況の違いを乗り越え、どのような「協働」により、災害による被害を軽減できるでしょうか。このセッションでは、世界的第一線で活躍するリーダーと共に、新しい国際協働のあり方を考えます。

1430+1431〈会議棟7階〉

14:30～16:00

事業継続普及セミナー
～実効性のある事業継続(BC)に向けて～

地震・火山防災計画復旧・復興

■主催:特定非営利活動法人事業継続推進機構 中小企業庁 内閣府 ■パネリスト:伊藤毅(特定非営利活動法人 事業継続推進機構)/丸谷浩明(特定非営利活動法人 事業継続推進機構)/細坪信二(特定非営利活動法人 事業継続推進機構)/新沼茂幸(特定非営利活動法人 事業継続推進機構)/奥野一三(特定非営利活動法人 事業継続推進機構)

「残念なBCP」について視点を、いかに実効性を高めるかといった点に加え、新たに経営視点のBCとして、「経営者が実践する経営視点の事業継続(BC)の取組み」について、パネルディスカッションを実施します。経営者自らが取り組んでいる実例や東日本大震災にすべての施設が津波に流れたところから実践されたBCの事例を交えて議論します。

1432+1433〈会議棟7階〉

14:30～16:00

専門家によるディスカッション&演芸で「首都直下地震」などへの対策を考えよう!
～防災啓発や防災教育、地震保険などの備えの重要性について～

地震・火山自助地域・共助

■主催:一般社団法人 日本損害保険協会 ■コーディネーター:山崎登(国土院地防 防災 救済救助総合研究所 教授) ■パネリスト:平田直(東京大学 地震研究所 教授 防災教育普及協会 会長)/廣井悠(東京大学大学院工学系研究科 准教授)/宇田川智弘(日本損害保険協会 業務企画部長) ■MC:半井小絵(気象予報士) ■スペシャルゲスト:ねづっち(お笑い芸人)

「首都直下地震」などの大規模災害の発生が予想される中、国民の災害への備えは日た日にあるといえます。そこで、大規模災害発生時における被害の軽減や復旧の迅速化につなげるため、防災啓発や防災教育、地震保険をはじめとした日頃からの備えの重要性を、みなさんに知っていただくことを目的に、有識者によるパネルディスカッションを行うとともに、演劇を通して皆様に分かりやすくお伝えいたします。

1434+1435〈会議棟7階〉

14:30～16:00

訪日外国人も安心!
災害・防災情報伝達の最新状況

災害情報地域・共助国際

■主催:アールシーソリューション株式会社 ■司会:渡邊優(アールシーソリューション株式会社) ■中村満寿央(一般財団法人ダイバーシティ研究所)/東穂江いつみ(株式会社三菱総合研究所)/山西紀博(アールシーソリューション株式会社)

2020年に向けて訪日外国人の人数は年々増加しており、日本で快適に旅行してもらうには災害対策が欠かせません。本セッションでは訪日外国人に関わる防災活動をしている方々にご参加いただき、訪日外国人に向けての防災対応や、課題、解決策等をパネルディスカッション形式でお話ししていただきます。

1436+1437〈会議棟7階〉

14:30～16:00

多様な災害からの逃げ道図を通した
世代間・地域間のリスクコミュニケーションの促進

防災計画地域・共助教育

■主催:子ども安全まちづくりパートナーズ、明治大学山本俊哉研究室、日建設ポラントピア塾 ■山本俊哉(明治大学理工学部教授、パートナーズ代表理事)/木下勇(千葉大学大学院 教授、パートナーズ理事)/福田利典(陸前高田市消防団分団長、陸前高田市議会議員)/森脇義典(小田原市消防団、パートナーズ事務局長)/大崎元(建築家 パートナーズ研究員)/井上雅子(子ども安全まちづくりパートナーズ研究員)

逃げ道図は、災害時に高齢者が避難場所まで歩いてたどり着ける経路を3分ごとに色分けして避難方向を指示した地図です。起こりうる災害を想定し、ハザードマップをもとに避難目標地点と避難経路地点を設定し、グループで作成します。逃げ道図は新しい避難場所や避難経路ができて色が変わります。つまり、逃げのための地図をつくるだけでなく、どうしたら、避難対策を促してそれを評価するツールです。ぜひ一度お試しください。

1438+1439〈会議棟7階〉

14:30～16:00

大規模水害から逃げ切る
～大規模・広域避難への対応～

風水害自助地域・共助

■主催:内閣府 ■モデレーター:田中淳(東京大学大学院教授) ■パネリスト:林正道(内閣府政策統括官 防災担当 付参事官 調査・企画担当)/山口正幸(江戸川区危機管理室 室長)/藤田光一(前 国土技術政策総合研究所 所長)/鈴江奈々(日本テレビ アナウンサー)

大規模水害から逃げ切るためには、一人ひとりが災害リスクを正しく理解し、行政機関などと一緒にどうして災害に備える必要があります。このセッションでは、洪水や高潮氾濫などの大規模・広域避難に関する国内外の取り組みを紹介するとともに、大規模・広域避難の実効性を高める手法について議論します。

1440+1441〈会議棟7階〉

16:30～18:00

みんなの減災 戦略会議

自助地域・共助教育

■主催:内閣府 ■司会 ディスカッションリーダー:菅野拓(阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 主任研究員 博士(工学)) ■ディスカッションリーダー:宇田川真之(東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 特任助教 博士(理学))/高橋祐(山形市まちづくり政策局 防災環境部 震災復興室 室長)/長岡晴樹(内閣府政策統括官(防災担当) 付 参事官(普及啓発・連携担当) 付 参事官(補佐))

災害は、いつどこにやってくるかわかりません。近年でも、一昨年の熊本地震、昨年の九州北部豪雨、今年の西日本豪雨など、災害が頻発しています。大地震や豪雨などの自然現象は、人間の力ではいかに止めることはできませんが、災害による被害は、わたしたちの日常の努力によって減らすことが可能です。どうすれば災害による被害を少なくすることができるのか、みんなで議論していきましょう。

1442+1443〈会議棟7階〉

16:30～18:00

災害に強いまちづくり～URの取り組み事例から見る、
災害に強いまちづくりの進め方～

地震・火山都市・建築自助復旧・復興

■主催:UR都市機構 ■望月浩史(UR都市機構 技術 コスト管理部)/猿田晃平(UR都市機構 技術 コスト管理部)/先崎隆史(UR都市機構 防災復興支援室)/赤堀まな(UR都市機構 都市再生部)

URではこれまで様々な災害について、地方公共団体向けに復旧・復興・防災の支援に取り組んで参りました。URの東日本大震災での支援事例や平時に行っている都市再生事業等を通じて、災害に強いまちづくりを進めたい時に、平常時や発生時に向何を準備すべきか、どういった取り組みを行うべきか、URのお手伝いできることについて、考えてみたいと思います。

会 場

国際会議場 〈会議棟7階〉
701・702 〈会議棟7階〉
703 〈会議棟7階〉
801 〈会議棟8階〉
802 〈会議棟8階〉

10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
防災交流フォーラム 「今、防災教育に足りないものは何か ～先駆者たちと未来を考える」	震災記録のポータルサイト ～使ってみよう東日本大震災 アーカイブ	東京スペシャル ～首都直下地震に備える～	被災地の復興支援から 将来のレジリエンス強化に向けて	クロージング		
災害と保健・医療連携フォーラム ～災害にあっても健康で乗りきる!～	全国高校生地域防災 Summit 2018 in 東京ビッグサイト	だれひとりとのこさない防災 ～別府市における インクルーシブ防災の実践から～	大地の恵みを知り、地元を愛し、 怖がらせない防災			
気象庁が発表する 防災情報について		大規模災害に向けた ドローンの利用最前線				

国際会議場 〈会議棟7階〉

(約1,000名)

701・702 〈会議棟7階〉

(約100名)

703 〈会議棟7階〉

(約100名)

801 〈会議棟8階〉

(約40名)

802 〈会議棟8階〉

(約55名)

国際会議場 〈会議棟7階〉 10:00～11:30

防災交流フォーラム「今、防災教育に足りないものは何か ～先駆者たちと未来を考える」

自 助 地域・共助 教 育

■主催：一般社団法人 防災教育普及協会 ■モデレーター：河田恵昭（関西大学特命教授 人と防災未来センター センター長 ほうさい甲子園選考委員会 委員長）／林春男（国立研究開発法人 防災科学技術研究所 理事長 防災教育チャレンジプラン 実行委員長 防災教育普及協会 副会長） ■パネリスト：木村陽歌（兵庫県立大学環境人間学准教授 防災教育普及協会 理事）／平田直（東京大学地震研究所 教授 防災教育普及協会 会長）／岡防清二（防災学習アドバイザー コーディネーター ほうさい甲子園 選考委員会委員）／健屋一（鹿児島女子大学観光コミュニティ学部 教授 TEAM防災ジャパン アドバイザー）／佐藤公治（南三陸町立歌津中学校 主幹教諭）／澤野次郎（一般社団法人 防災教育普及協会 常務理事 災害救援ボランティア推進委員会 委員長）／國崎健江／（株式会社危機管理教育研究所 代表 東京都 女性視点の防災・フック編集 検討委員会 委員）／中川和之（株式会社時事通信社 解説委員 静岡大学防災総合センター 客員教授）

地震・津波、火山、風水害などに備え、防災教育の一層の推進が求められています。しかし学校・組織・地域では、なかなか進みません。そこで防災教育の先駆者から、これまでの活動とともに、今、防災教育に足りないものは何かを話題提供します。そして、問題解決の方法・戦略をディスカッションします。

701+702 〈会議棟7階〉 10:00～11:30

震災記録のポータルサイト ～使ってみよう東日本大震災アーカイブ

地震・火山 復旧・復興

■主催：国立国会図書館 ■司会：高品盛也（国立国会図書館 電子情報部 電子情報流通課長） ■モデレーター：柴山明寛（東北大学 災害科学国際研究所 准教授） ■パネリスト：三浦伸也（国立研究開発法人 防災科学技術研究所 総合防災情報センター 自然災害情報室 主幹研究員）／池上三喜子（公益財団法人 市民防災研究所 理事 特別研究員）／清水弘明（NHK 知財センター アーカイブス部 副部長）／伊東敦子（国立国会図書館 電子情報部 主任司書）

過去の事例を知っていたから災害に対応できた、という証言は少なくありません。国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（以下「なげく」）は、国立国会図書館だけでなく連携・協力をする国や自治体、企業等、様々な機関の震災の記録等、約380万件を包括的に検索できるポータルサイトです。セッションでは、ひなびくを紹介するほか、特色ある取組を行っている機関から報告を行います。最後に、防災意識の向上をテーマに討論を行います。

703 〈会議棟7階〉 10:00～11:30

災害と保健・医療連携フォーラム ～災害にあっても健康で乗りきる～

地震・火山 風水害 医療・福祉

■主催：東北大学災害科学国際研究所 ■パネリスト：児玉栄一（東北大学教授）／久保祐子（日本看護協会 課長）／佐々木宏之（東北大学 助教）／河島譲（国立病院機構災害医療センター）／濱館陽子（東京医科歯科大学 博士課程） ■司会：丸谷浩明（東北大学教授）

本フォーラムでは、東日本大震災、熊本地震、各地の風水害などの経験と教訓を踏まえて、保健・医療の面で、専門家、実務者、市民が連携して被災者をいかに支えるかを考えます。そして、心身の健康に考慮した避難生活の過ごし方など、市民の方々にも知っておいて頂きたいことをわかりやすく解説します。医学研究が一つの柱である東北大学災害科学国際研究所が主催し、DMAT隊員、DPAT隊員、看護協会、大学院生なども登壇します。

801 〈会議棟8階〉 10:00～11:30

全国高校生地域防災 Summit 2018 in 東京ビッグサイト

地域・共助 教 育 国 際

■主催：岐阜聖徳学園高等学校 ■司会：本校生徒1（岐阜聖徳学園高校） ■パネリスト：宮城県立多賀城高校生徒／押塚先生（千葉県立東金特別支援学校）／小島先生（東京都立大崎高校）／東京都立文京高校生徒／吉田亮一（YY防災ネット 宮城県）／以下Skypeでの参加（兵庫県立舞子高校生徒）／岡山県立真庭高校生徒 他）

岐阜市の普通科、商業科を持つ私立高校です。県の「グローバル人材育成事業」で、地元「長良川」の恵みと、河川氾濫の歴史を学びました。小中学生や地域の方々とDIG.HUGを実施後、より立体的に、現場での避難所運営や避難のシミュレーションをゲーム感覚で行いました。今回のSummitで、全国の地域防災に関わる高校生たちと議論を深め、「高校生が地域に対し何ができるか」という命題に迫りたいと思います。

802 〈会議棟8階〉 10:00～11:30

気象庁が発表する防災情報について

災害情報 地域・共助 教 育

■主催：気象庁 ■司会：吉田友香（気象庁 総務部 総務課 広報室 広報係員） ■東田進也（気象庁 総務部 企画課 防災企画室長）／岡田憲治（気象庁 予報部 予報課 技術専門官）／古謝植之（気象庁 地震火山部 地震津波監視課 強震解析係長）／井智史（気象庁 地震火山部 火山課 火山防災情報調整室 噴火予知調整係長）

気象庁が発表する気象、長周期地震動、火山に関する防災情報についてご紹介いたします。

12:00～13:30

被災地の復興支援から 将来のレジリエンス強化に向けて

自 助 地域・共助 ボランティア

■主催：日本赤十字社 ■ファシリテーター：重川希志依（常葉大学 大学院環境防災研究科 教授） ■パネリスト：天野和彦（福島大学 うつくしまくま未来支援センター 特任教授）／桜井愛子（東洋英和女学院大学 国際社会学部 准教授）／菅野拓（人と防災未来センター 主任研究員）／白土直樹（日本赤十字社 事務局 救護・福祉部次長）

災害は、私たちに人的・物的な被害にとどまらず、時として地域コミュニティの破壊という重大な被害をもたらします。このセッションでは、東日本大震災を始めとした過去の災害における復興支援等から得られた教訓を明らかにするとともに、将来の大規模災害に備えるため、私たちは日頃から何に取り組むべきなのかを、各分野のパネリストが地域における「レジリエンスの強化」という視点から議論します。

12:00～13:30

被災地の復興支援から 将来のレジリエンス強化に向けて

自 助 地域・共助 ボランティア

■主催：日本赤十字社 ■ファシリテーター：重川希志依（常葉大学 大学院環境防災研究科 教授） ■パネリスト：天野和彦（福島大学 うつくしまくま未来支援センター 特任教授）／桜井愛子（東洋英和女学院大学 国際社会学部 准教授）／菅野拓（人と防災未来センター 主任研究員）／白土直樹（日本赤十字社 事務局 救護・福祉部次長）

災害は、私たちに人的・物的な被害にとどまらず、時として地域コミュニティの破壊という重大な被害をもたらします。このセッションでは、東日本大震災を始めとした過去の災害における復興支援等から得られた教訓を明らかにするとともに、将来の大規模災害に備えるため、私たちは日頃から何に取り組むべきなのかを、各分野のパネリストが地域における「レジリエンスの強化」という視点から議論します。

12:00～13:30

だれひとりとのこさない防災 ～別府市におけるインクルーシブ防災の実践から～

地域・共助 医療・福祉 被災者支援

■主催：日本財団 ■協力：人と防災未来センター ■登壇者：村野淳子（別府市共創戦略室防災危機管理課）／立木茂雄（同志社大学社会学部）／川北秀人（IIHIOE（人と組織と地球のための国際研究所））

本プロジェクトチームは日本財団と共同して、防災におけるSDGs（持続可能な開発のための17の目標）実践を別府で3年間行っています。具体的には「だれひとりとのこさない防災」として、平時から支える専門職や地域の皆さんと災害時避難行動・災害時避難生活の個別計画をたて、有事に対応できる力を磨くための取組です。①別府市における実践の報告、②実践で標準化されたパッケージの紹介、③他地域に展開するためポイントを紹介いたします。

12:00～13:30

大地の恵みを知り、 地元を愛し、怖がらせない防災

地震・火山 風水害 教 育

■主催：日本ジオパークネットワーク ■パネリスト：中川和之（日本ジオパーク委員会調査運営部会長 時事通信社解説委員）／加藤孝明（東京大学生産研究部）／杉本伸一（三陸ジオパーク ジオパーク コーディネーター）／佐藤公（磐梯山噴火記念館 館長）／その他、各地のジオパークからの事例報告

ジオパークは、地球科学的価値のある地質遺産を大切に、教育や防災だけでなく、科学的根拠を持って観光にも活用し、地域の持続可能性を高める活動を行っています。絶景はたいい過去の激しい自然現象の痕跡。時に災いをもたらす大地の営みが人々の日常には恩恵をもたらします。[危ない、怖い]だけの防災では、地元を嫌いになり観光客も来ません。初の「津波災害特別警戒区域」を指定した伊豆・土肥地区など各地の取り組み例から、地域防災活動に役立つ事例を共有します。

12:00～13:30

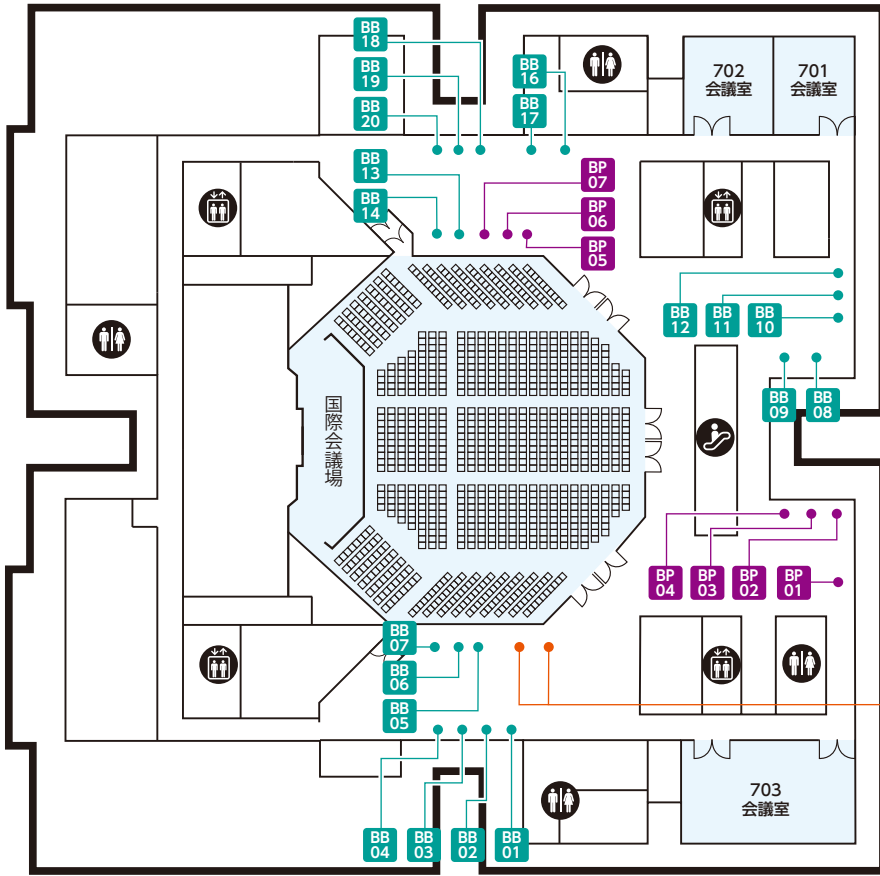
大規模災害に向けたドローンの利用最前線

科学・技術 災害情報

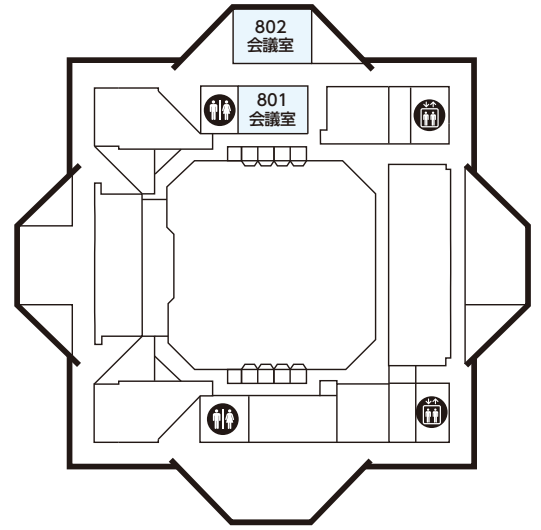
■主催：日本ドローンコンソーシアム ■司会：伊東明彦（（一社）日本ドローンコンソーシアム） ■パネリスト：野波健蔵（（一社）日本ドローンコンソーシアム）／富井隆春（（株）アミューズワンセルフ）／佐藤靖（（株）エネルギー コミュニケーションズ）／岩崎晃（東京大学先端科学技術研究センター）／酒井直樹（防災科学技術研究所）

（一社）日本ドローンコンソーシアム（略称：JDC）は、ドローンに係る研究開発、社会実装、産業成長・普及促進に寄与することを目的に設立したコミュニティです。JDCでは、防災・災害把握に係る企業・研究者が集まり、防災部会を発足し、活動しています。本セッションでは、地域防災でのドローン利用促進のため、防災・災害把握を目的とした機体開発、各機関における取組み状況、今後の利用可能性などを紹介させていただきます。

会議棟7階



会議棟8階



サンプリングブース

ノンアルコール・アトピー肌用化粧品から生まれた
ウエットティッシュ(化粧品類)!

■エビスタ コーポレーション/株式会社ブリート

便利な防災用品のご紹介。ノンアルコールで脂汚れが落ち、消臭・保湿・感染予防対策・静電気防止・口腔ケアが出来ます。全身拭けて、メイク落としとしてもOK。汚れやニオイ、デリケートゾーンのケアも。敏感肌用ウエットティッシュ(化粧品類)としてご使用頂けます。

グリコの長期保存食

■江崎グリコ株式会社

万が一の備えとしてグリコは普段食べなれた食品を利用するシーンにあわせて2つの長期保存食にしました。初動対応としてロングセラー“ビスコ”の保存食、BCPやその後の食事としてトルトカレーの“常備用カレー職人”。備蓄食料は利用するシーンを想定し、必ず試食したうえで選ぶようにしましょう。

防災グッズが
もらえるよ!

プレゼンブース
プログラム

〈7Fロビー〉

BB 02 災害情報の配信を支えるLアラート

災害情報 地域・共助 防災行政

■総務省

Lアラートとは、地方自治体や通信・電気・ガス等のライフライン事業者からの災害情報を、多様なメディアを通じて、住民の皆様に迅速かつ効率的に伝達する共通基盤です。Lアラートの概要や特徴、また、Lアラートに関する総務省の取組について、ポスターや動画などを用いて分かりやすく紹介します。

BB 01 Global Efforts on Disaster Risk Reduction
-防災に関するグローバルな取り組み-

防災計画 国際

■国連国際防災戦略事務局 (UNISDR)

国連の防災担当部局として2000年に発足しました。自然災害による被害・損失の減少、災害リスクの軽減を目指す。国際防災協力の枠組み構築、調整のための触媒的役割を果たしています。仙台防災枠組の実施推進など、多くのパートナー機関と共に各国の防災政策実施を支援しているUNISDRのグローバルな取り組みについて紹介します。◇ウェブサイト: www.unisdr.org

BB 01 「Build Back Better (より良い復興)」に関する
経験と教訓を発信

復興・復興 国際

■国際復興支援プラットフォーム (IRP)

大規模災害からの「Build Back Better (より良い復興)」を促進するための国際的な協力の枠組として2005年5月に設立 (日本政府を含む17の政府、国連機関等で構成)。復興支援ツールの開発やフォーラムの開催など、復興に関する知識の集積と情報発信をはじめとする国際社会における防災の取組を紹介しています。◇ウェブサイト: www.recoveryplatform.org

BB 03 SIP「レジリエントな防災・減災機能の強化」

地震・火山 風水害 災害情報

■内閣府、科学技術振興機構 (JST)

内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 「レジリエントな防災・減災機能の強化」において開発された成果について、災害関連データを府省連携して「収集」「分析」する防災情報共有システム「SIP4D」を中心に紹介します。

BB 04 防災科研の取り組み

地震・火山 科学・技術 災害情報

■国立研究開発法人 防災科学技術研究所

国立研究開発法人防災科学技術研究所 (防災科研) は、防災科学技術に関する基礎研究及び基盤的研究開発、それらに係る成果の普及及び活用の促進等の業務を総合的に、防災科学技術の水準の向上を図り、成果の防災対策への反映を図ることにより、「災害から人命を守り、災害の教訓を活かして発展を続ける災害に強い社会の実現を目指すこと」を目標としています。

BB 05 地震本部とは?!

地震・火山 科学・技術 防災行政

■地震調査研究推進本部/文部科学省

地震調査研究推進本部 (地震本部) とは、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の経験を活かし、地震に関する調査研究の成果を社会に伝え、政府として一元的に推進するために作られた組織です。地震防災対策の強化、特に地震による被害の軽減に資する地震調査研究の推進を基本的な目標として活動を行っています。地震本部の活動や公表している成果を、ポスターなどでわかりやすく説明します。

BB 06 恐るべし! 愛知・名古屋
～強化共創センターの取り組みと
巨大地図を使ったワークショップの紹介～

地震・火山 災害情報 防災計画

■あいち・なごや強化共創センター

当センターは、愛知県、名古屋市、名古屋大学が連携し、産業界の協力を得て、大規模災害から社会・経済を守るための調査研究や、事業を推進しています。こちらのブースでは、巨大な地図とプロジェクションマッピングを組み合わせた、「巨大地震のときに起こる事態の可視化」ワークショップについて紹介し、そのミニチュアを展示します。また、当センターの啓発事業で用いているパネルや教材を掲示します。

BB 07 応援します!! 東北! 陸前高田市!
～名古屋市行政丸ごと支援・市民交流～

復興・復興 防災行政

■名古屋市防災危機管理局

「行政丸ごと支援」とは、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市の行政全般を、名古屋市の持つ総合力によって「丸ごと支援」する、発災直後から今日に至るまで続いている全国発の取り組みです。被災地の復興・復興の状況に併せて、刻々と変化する被災地ニーズに対応して業務に精通した職員を派遣したり、両市の子どもたちの交流や産業支援を実施するなど、陸前高田市の復興を総合的に支援しています。

BB 08 あなたが知りたい防災科学の最前線 —首都直下地震に備える(その1) 地震・火山 科学・技術 風水害 ■防災学術連携体、日本学術会議 近年首都直下地震の発生が危惧されている中、地域の防災力の強化に科学を役立てるため、日本学術会議や防災学術連携体(56学会)の防災に関する活動を市民の皆様を知っていただくとともに、防災に関わる情報をわかりやすく提供します。(その1)のブースでは、主にハード面で、(その2)のブースでは主にソフト面での防災に関する情報を発信します。別途実施予定のセッション(10月13日16時30分より国際会議場にて開催)と連携して、防災に関わる正しい情報を伝え、市民と科学者の相互理解を図ります。	BB 09 あなたが知りたい防災科学の最前線 —首都直下地震に備える(その2) 科学・技術 災害情報 ■国立研究開発法人情報通信研究機構 耐災害ICT研究センター 東日本大震災の教訓として、情報通信ネットワークは重要な社会インフラであり、そのレジリエント性を確保することが極めて重要であると認識され、当センターは「耐災害ICT研究」を実施する研究拠点として被災地である仙台市に開設されました。今回は地方公共団体が実施する防災訓練等においても活用されている大規模災害時の被災状況把握システムや災害に強いネットワークシステムに関する研究開発成果等について紹介します。	BB 10 多言語対応音声ガイド ジュニア学会員による防災教育活動 自 助 地域・共助 教 育 ■株式会社CO3 スマートフォンを利用した多言語対応の音声ガイドプラットフォームを提供しております。防災施設や設備の説明を、来訪者のスマートフォンに対して、多言語でテキストのみならず音声にてガイドすることで、より理解を深める事に活用いただいております。教育の一環としての取組み(ジュニア学芸員)を行っております。児童・生徒が、防災施設などで、感じたこと学習したことを、自らの力で施設ガイドとしてまとめ、達成感を感じてもらい、自分のみならず、より多くの人に「防災」への興味・関心を持ってもらう事を目的に取り組んでおります。
BB 11 防災・災害分野へのドローンの利用事例紹介 科学・技術 災害情報 ■(一社)日本ドローンコンソーシアム (一社)日本ドローンコンソーシアム(略称:JDC)は、ドローンに係る研究開発、社会実装、産業成長・普及促進に寄与することを目的に設立したコミュニティです。JDCでは、防災・災害把握に係る企業・研究者が集まり、防災部会を発足し、災害時の情報収集や防災訓練へのドローン利用等、防災・災害把握へのドローン利用の推進に繋がる活動を行っています。展示ブースでは、これらの活動の状況を紹介させていただきます。	BB 12 災害に強い情報通信技術の構築に向けて 科学・技術 災害情報 ■国立研究開発法人情報通信研究機構 耐災害ICT研究センター 東日本大震災の教訓として、情報通信ネットワークは重要な社会インフラであり、そのレジリエント性を確保することが極めて重要であると認識され、当センターは「耐災害ICT研究」を実施する研究拠点として被災地である仙台市に開設されました。今回は地方公共団体が実施する防災訓練等においても活用されている大規模災害時の被災状況把握システムや災害に強いネットワークシステムに関する研究開発成果等について紹介します。	BB 13 産学連携による防災・減災に関する研究活動・社会貢献 地震・火山 風水害 教 育 ■東北大学防災科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門 2012年4月、東北大学防災科学国際研究所に「地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門」が開設されました。当部門では、東日本大震災の被害実態やこれまでの巨大地震における津波(波高や到達時間)を評価し、国内外における社会での脆弱性や防災力を考慮した被害推定手法を研究しています。また、防災・減災に関するセミナー開催や防災教育ツールの開発等を通じて、得られた知見を広く社会に提供してきております。
BB 14 命を守る防災教育、TEC-FORCEの取組 風水害 教 育 復旧・復興 ■国土交通省 防災課 国土交通省では、社会資本の整備や管理等を通じて様々な防災関係の施策を展開しています。今回はその中でも、防災教育の支援として防災カードゲーム及び水害から身を守るためのポイントを学ぶことができる動画の紹介や災害時に活躍する国土交通省照明車のミニカーの展示、大規模な災害発生時に迅速に地方公共団体等への支援を行うTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)の取組紹介などを行います。	BB 16 防災・災害把握へのリモートセンシングの取組み 科学・技術 災害情報 環境・持続可能性 ■日本リモートセンシング学会 (一社)日本リモートセンシング学会は、リモートセンシングに関する研究の連絡・提携を図り、学問および技術の発展、普及に寄与することを目的に活動しています。近年の大規模災害時における状況把握に、リモートセンシングの技術が注目されており、衛星・ドローンを利用した多くの事例が蓄積されつつあります。本展示ブースでは、学会での取組み状況や大規模災害におけるリモートセンシングの利用事例を紹介させていただきます。	BB 17 つくる!なおす!まもる! 地域建設業の取り組み 地域・共助 復旧・復興 ■一般社団法人 全国建設業協会 地震や台風、大雪や竜巻など予期せぬ災害が発生したとき、真っ先に災害現場に駆けつけ、被害を最小限に抑えるため、応急復旧を行っている・・・そんな地域建設業の活動状況をパネルで紹介いたします。また、建設のしごとを知ってもらうための子ども向けパンフレット「建設学習帳」の配布等も行います。
BB 18 ペットの災害対策 地震・火山 自 助 被災者支援 ■一般財団法人 ペット災害対策推進協会 阪神淡路大震災の際に現地動物救護本部が行った活動に対して後方支援を行った団体から構成された緊急災害時動物救護本部の活動を引き継ぎ、災害発生時における現地の動物救護本部が行う動物救護活動の後方支援を行うのみならず、平常時における災害時に備えた次の活動を行っています。1 平常時から災害に備える大切さの普及・啓発 2 救護ボランティアの育成・研修 3 物資支援体制の構築 4 現地動物救護本部の設置支援	BB 19 人とペットの災害対策 防災計画 自 助 被災者支援 ■環境省 動物愛護管理室 動物愛護管理室では、平成25年に「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」を自治体に配布しましたが、平成28年の熊本地震への対応等を検証し、内容と構成を変えた改訂版を「人とペットの災害対策ガイドライン」として平成30年に発効し送付しました。9月の動物愛護週間ではペットの飼い主さん向けの冊子も提示する予定ですが、ブースでは防災に関する質問等を受け、人とペットの災害対策を啓発・普及します。	BB 20 防災のための第一歩 —子どものうちから身につけたい地球の知識— 地震・火山 科学・技術 教 育 ■日本地質学会 一般社団法人日本地質学会では、WEB教材「ボクたちの“足もと”から地球のことを知ろう〜地層と地形が教えてくれるボクたちのルーツとミライ〜」をつくりました。災害から身を守るには、まずは地球のことをよく知っていることが重要です。このブースでは、このWEB教材を体験しながら研究者とコミュニケーションを図り、防災の基礎知識である地質に関して興味を持って頂ければと思います。

BP 01 第33回防災ポスターコンクール受賞作品 教育 ■防災推進協議会 内閣府、防災推進協議会では、防災意識のより一層の高揚を図るため、防災に関するポスターデザインを広く一般から公募を行う「防災ポスターコンクール」を実施しております。昨年度行ったコンクールにおいて、入賞した作品を展示します。	BP 02 『ハザード・リスク実験コンソーシアム』の紹介 地震・火山科学・技術災害情報 ■リアルタイム地震・防災情報利用協議会(REIC) 当協議会が設立した『ハザード・リスク実験コンソーシアム』は、内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」のうち、「レジリエントな防災・減災機能の強化」において国立研究開発法人防災科学技術研究所により研究開発が進められている「リアルタイム地震被害推定」の研究成果の、民間利活用に向けた取組みとして発定したものです。このコンソーシアムにおける実験内容と、実用化に向けた取組みをご紹介します。
BP 03 「攻め」の防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーションハブ 風水害災害情報防災産業 ■国立研究開発法人防災科学技術研究所 気象災害軽減イノベーションセンター 気象災害軽減イノベーションセンターは、人材、情報、技術を糾合し、成果の社会実装をめざした「攻め」の防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーションハブの構築に取り組んでいます。気象災害の早期予測技術をコアとして、次世代センシング技術、IoT情報技術等を取り入れ、コンソーシアム等を通じたステークホルダーとの連携により、地域特性・利用者ニーズに応じた予測情報システムの社会実装を実現します。	BP 04 日本地球惑星科学連合(JpGU)の活動 地震・火山風水害科学・技術 ■日本地球惑星科学連合(JpGU) 日本地球惑星科学連合(JpGU)は地球惑星科学と関連分野にかかわる研究者、学生、市民の方々と、関連の50学会からなる学術団体です。今回は日本地球惑星科学連合の活動、毎年5月に開催する連合大会での災害対応関連セッション、環境災害対応委員会の活動についてポスターでご紹介いたします。
BP 06 建設会社の防災活動 インフラ教育復旧・復興 ■一般社団法人 日本建設業連合会 近年頻発する豪雨災害、近いうちに発生が想定される大規模地震災害等に対し、建設業界としてどう対応してきたか、またどう備えるのかについて、パネル等を用いて紹介します。また、建設防災トレーニングカードの配布を通して、みなさまに防災に関する基礎的知識を紹介させていただきます。	BP 05 東日本大震災アーカイブ(ひなぎく) 地震・火山復旧・復興 ■国立国会図書館 ひなぎくは、東日本大震災に関連する記録等を包括的に検索できるポータルサイトです。震災の記録等を次の世代へ伝え、今後の防災・減災対策に役立てることを目的としています。様々な機関と連携・協力して、震災の記録等の収集・保存・提供を行っています。ひなぎくで検索できる震災の記録等は、約380万件です。ひなぎくのパンフレットやひなぎくを活用した防災学習のチラシなどを配布します。
BP 07 防災体験が無料でできる公園です 東京臨海広域防災公園 東京臨海防災公園は、広大な芝生広場やヘリポートがあり、防災訓練や様々なイベントが実施され、防災を身近に感じながら、楽しく防災を学ぶ事ができる公園です。しかし首都圏で大きな災害が起きた時は、「緊急災害現地対策本部」が設置され、広域的な司令機能を受け持つ場所となり、避難場所にはならない公園です。園内には、「172h、君は生き残れるか」をテーマに、無料で防災体験ができる「そなエリア東京」があります。	

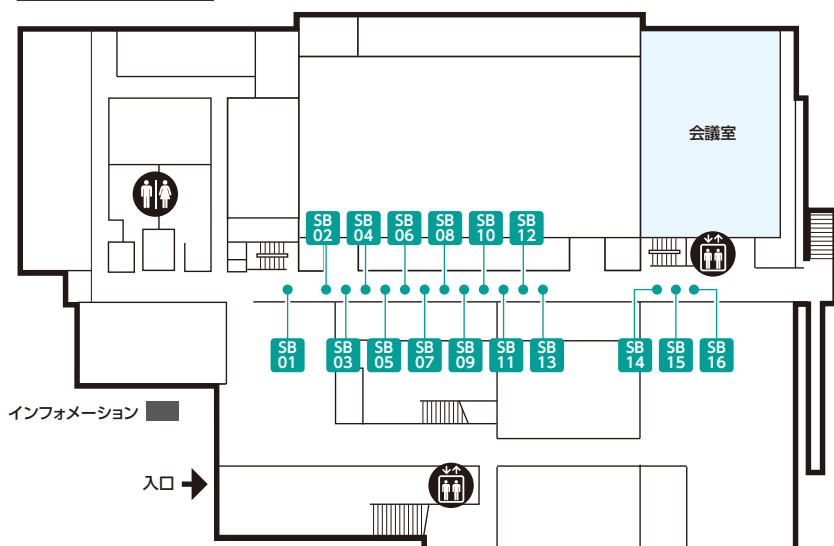
セッション

関係団体主催

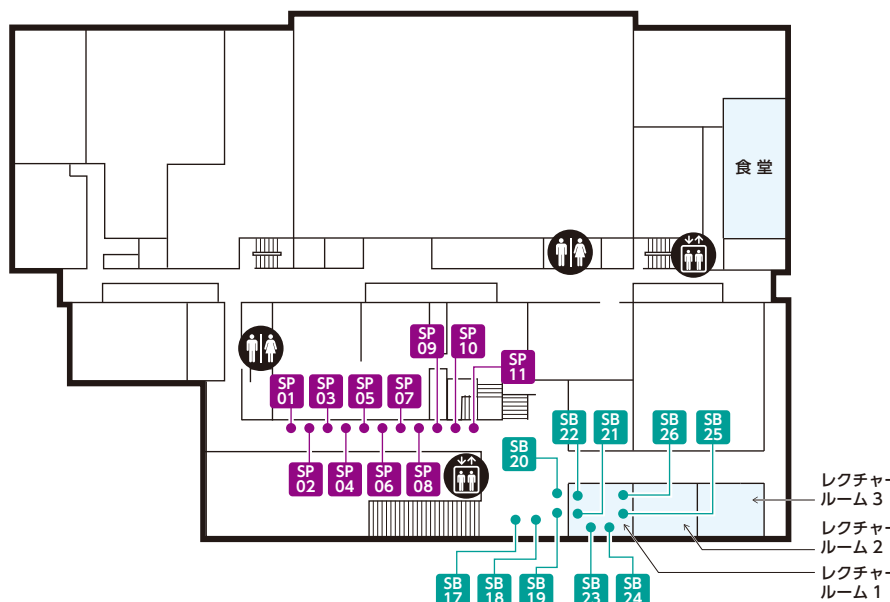
ワークショップ

関係団体主催

本部棟1階



本部棟2階



プレゼンブース〈1階廊下〉

SB 01 地震ザブトン×VR

地震・火山 教育

■株式会社構造計画研究所、白山工業株式会社

「地震ザブトン×VR」は、白山工業のロボティクス技術と、構造計画研究所の地震応答解析技術・VR技術のコラボレーションによる、新しい地震動シミュレーターです。専用の椅子に座りVRヘッドセットを装着すると、臨場感のある室内の3D空間が出現し、激しい揺れとともに現実さながらの地震体験ができます。実際の観測データに基づく地震動の再現により、地震災害を「我が事」として考えるきっかけを提供します。

SB 05 "東日本大震災後の被災地での継続支援活動をととして他地域・次世代へ伝える～東北学院大学・尚網学院大学～"

地域・共助 被災者支援 ボランティア

■学部仙台コンソーシアム 復興大学 災害ボランティアステーション
学部仙台コンソーシアム 復興大学 災害ボランティアステーション事業として東北学院大学、尚網学院大学は、震災直後から各大学の特色を活かしながら、宮城県内の被災者支援を継続して行ってきました。震災から7年、被災地の課題が変化している中で学生たちの支援活動や取り組みを紹介します。全国の大学と連携して実施してきた活動や支援の広がり、学生の学びやつながり、防災・減災を担う次世代の育成の取り組みを紹介します。

SB 09 天災時の夜間避難対応型避難誘導標識

地震・火山 災害情報 自 助

■NPO 都市環境標識協会

現在、全国の各地方公共団体で設置されている避難標識はその形状・色調等が各自治体で不統一の状況にあり、災害発生時に被災者を避難場所へ適切に誘導する機能果たしていません。また夜間の避難行動に必要な照明付標識についてはほとんど設置されていません。本展示会では、これらの課題を解決するために必要な全国統一デザインの夜間避難対応型避難誘導標識(各種災害警報・緊急地震速報と連動)を展示します。

SB 13 段ボールジオラマ防災授業

防災計画 地域・共助 教育

■防災ジオラマ推進ネットワーク

組立式のジオラマキットを活用したワークショップ型の防災学習プログラムのご紹介です。自分の住んでいるエリアの地図が印刷された段ボール製のジオラマを組み立て、楽しみながらまちの地形や災害リスクが学べます。防災関連などの様々な情報をマッピングするなど、その後も地域の共有資産として活用いただけます。

プレゼンブース〈2Fロビー〉

SB 17 すべての福祉施設が「福祉防災計画」作成を!

防災計画 地域・共助 医療・福祉

■一般社団法人福祉防災コミュニティ協会

全国各地で、様々な自然災害等が発生しています。災害時、社会福祉施設や事業者は、施設の入所者・利用者や職員の命を守ることはもちろん、利用者への支援を続ける責任を担わなければなりません。災害等に利用者への支援が途切れぬよう、事前の準備が重要です。災害発生直後の応急業務に加え、中断できない業務や早期復旧が必要な業務を円滑に進めるため、必要資源の確保や各種対策を定める福祉防災計画を作成しておきましょう。

ポスターセッション〈2F廊下〉

SP 01 避難所運営と避難のシミュレーションを地域でリアル体験

地域・共助 教育 国際

■岐阜聖徳学園高等学校

岐阜市の普通・商業科を持つ私立高校です。県の「グローバル人材育成事業」で地元「長良川」の恵みと河川氾濫の歴史を学びました。小中学生や地域の方々とDIG、HUGを実施後より立体的にと、現場での避難所運営や避難のシミュレーションをゲーム感覚で行いました。今回「全国高校生地域防災Summit」でその実践を紹介します。全国の高校生と議論し「高校生が地域に対し何ができるか」という命題に迫りたいと思います。

SP 05 山地災害への対応

復旧・復興 防災行政

■林野庁治山課

近年、短時間強雨の発生頻度が増加傾向にあり、大規模山地災害の多発化・激甚化に加え、地球温暖化に伴う気候変動により大雨の発生頻度が更に増加するおそれが高いことが指摘されている中で、山地災害の未然防止を含めた林野庁における治山対策の取組を紹介します。

SP 09 日本赤十字社が取り組む防災・減災一赤十字防災セミナーのご紹介一

自 助 地域・共助 ボランティア

■日本赤十字社

日本赤十字社は、過去の災害から得た教訓を踏まえ、将来の大規模災害から人々への防衛を守るためには、地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高める防災教育が極めて重要だと考えています。このポスターセッションでは、日本赤十字社の災害発生時の応急対応、復旧・復興、防災・減災に関する取り組みと、平成29年度から全国で実施している「赤十字防災セミナー」について分かりやすく紹介します。

プレゼンブース〈レクチャールーム1〉

SB 21 多様な災害からの逃げ地図作成を通した世代間・地域間の連携促進

防災計画 地域・共助 教育

■子ども安全まちづくりパートナーズ、日建設計ボランティア部
逃げ地図は、最も近い目標避難地点までの時間を色鉛筆で塗り分けた手づくりの地図です。日建設計ボランティア部が大规模施設の避難計画のノウハウを応用して考案しました。その後、明治大や千葉大の研究室が協働して多様な災害からの逃げ地図づくりワークショップのマニュアルを開発しました。子ども安全まちづくりパートナーズは、それらの研究成果の社会実装機関です。逃げ地図づくりを通して世代間・地域間の連携の紹介をします。当日は明治大の学生らも応対します。

SB 23 避難所運営と避難のシミュレーションを地域でリアル体験

地域・共助 教育 国際

■岐阜聖徳学園高等学校

岐阜市の普通・商業科を持つ私立高校です。県の「グローバル人材育成事業」で地元「長良川」の恵みと河川氾濫の歴史を学びました。小中学生や地域の方々とDIG、HUGを実施後より立体的にと、現場での避難所運営や避難のシミュレーションをゲーム感覚で行いました。今回「全国高校生地域防災Summit」でその実践を紹介します。全国の高校生と議論し「高校生が地域に対し何ができるか」という命題に迫りたいと思います。

SB 25 消防団員募集中!! ~地域防災力の向上のために~

地域・共助 防災行政

■総務省 消防庁

地域防災力の中核となる消防団の活動を紹介し、女性や若者をはじめ国民の幅広い層に加入を呼びかけます。また、防災の知識や災害時の危機管理についてeラーニングにより学習できる「防災・危機管理e-カレッジ」での学習体験を行いますので、皆さんで地域の防災について考えましょう。

SB 22 大地の恵みを知り、地元を愛し、怖がらせない防災

地震・火山 風水害 教育

■日本ジオパークネットワーク

防災の経験と体験を全国へ。平成18年から23年まで地域防災リーグの経験と実績・3・11の東日本大震災では避難所責任者として小学生・中学生・高校生と様々な役割を。学校防災と地域防災の経験と実績を全国の方々にお伝えし、今後の防災に協力をして行きたいとの、思いからYY防災ネットを立ち上げ防災応援プロジェクトを開始し、全国の自治会・町内会・小学校・中学校・高校へ講演・防災授業など、様々な活動を行っています。

SB 24 学校防災・地域防災の活動

地震・火山 防災計画 教育

■防災減災アドバイザー 学校防災・地域防災 YY防災ネット

防災の経験と体験を全国へ。平成18年から23年まで地域防災リーグの経験と実績・3・11の東日本大震災では避難所責任者として小学生・中学生・高校生と様々な役割を。学校防災と地域防災の経験と実績を全国の方々にお伝えし、今後の防災に協力をして行きたいとの、思いからYY防災ネットを立ち上げ防災応援プロジェクトを開始し、全国の自治会・町内会・小学校・中学校・高校へ講演・防災授業など、様々な活動を行っています。

SB 26 消防防災における研究開発の推進に向けた取り組み

科学・技術 救急・救助 防災行政

■消防研究センター

消防研究センターは、昭和23年に設置された消防研究所の伝統と成果を引き継いだ、わが国唯一の消防防災に関する総合的研究機関です。消防研究所創設時の目的である、現場の消防職団員の活動を科学技術の面から支えて、社会の安心と安全の要請に応えることを、基本的な使命としています。また、研究成果が消防機関に活用されることはもちろん、消防・防災技術の普及・振興活動、さまざまな対外活動に力を注いでいます。

SB
02 色んな視点で考えよう!復興における男女共同参画

ジェンダー・多様性

■復興庁男女共同参画班

災害からの復興には、女性、子ども、障害者等を含めた多様な方の意見が反映されることが大切です。今回は、東日本大震災からの復興活動のうち、男女共同参画等の視点から行われているまちづくりや居場所づくり等の事例紹介や、その他復興に関する情報発信を行います。

SB
06 ぼうさいこくたい 会場たんけん

自 助 地域・共助 教 育

■公益社団法人 全国子ども会連合会

「たんけん、はっけん、ぽっさいこくたい」ぼうさいこくたいの会場を大いにたんけんし、今年6月、大阪府北部地震(震度6弱)は大都市の朝の通勤を直撃しました。このため私鉄ローカル線では列車36本が駅と駅の間で緊急停止し、運転再開の判断が遅れたことから、乗客数万人が最寄駅まで線路上を歩いて移動しました。女性が普段履いているファッション重視のパンプスやハイヒール・ミュールサンダルで線路上を歩くのは危険であり、女性だけが「災害弱者」となる可能性があります。

SB
10 防災減災健康ビジネスシューズ
男女共同参画やLGBTに配慮した多機能型ビジネスシューズ

地震・火山 風水害 ジェンダー・多様性

■一般社団法人 防災減災健康普及協会(DPDP)

最近、御岳山や草津白根山、ハワイのキラウエア火山など、国内外で噴火が相次いでいます。首都圏でも富士山などの関東周辺の火山が大噴火を起こすと大きな影響を受けるので、事前に火山噴火の特徴をよく理解して、しっかりと備えをしておくことが大切です。本展覧では、火山噴火が引き起こす災害についてのポスターやパンフレットを掲示して、子供連にも分かりやすく説明します。

SB
14 火山災害をよく知って、しっかり備えよう

地震・火山 科学・技術 教 育

■特定非営利活動法人 日本火山学会

国土地理院は、災害対策基本法に基づく指定行政機関に指定されており、災害の被害状況を迅速に把握し、関係機関や国民に情報提供する役割を担っています。今回の展示では、災害時の緊急観測をはじめ、陸域観測技術衛星(だいち2号)や国土地理院で運用する電子基準点網を利用した地殻活動の監視など国土地理院の防災活動についての紹介や、国土地理院が提供する防災に役立つ地理空間情報の活用について紹介します。

SB
03 災害時のマンション生活を考える

防災計画 自 助 地域・共助

■一般社団法人マンションライフ継続支援協会(MALCA)

管理組合等のマンション関係者を対象に、マンションの防災力強化・向上について啓発し、首都直下地震や南海トラフ巨大地震等への対策強化を促進する為、マンション防災の普及啓発パネル展示及びマンション室内の安全対策パネル展示、マンション防災の普及啓発パンフレットの配布等を行う。

SB
07 災害から身を守るための様々な防災気象情報

災害情報 地域・共助 教 育

■気象庁

気象庁では、気象、地震、火山に関する様々な防災気象情報を発表しています。平成30年6月5日には新しいスーパーコンピュータの運用を開始し、6月20日から降水短時間予測の予報時間をこれまでの6時間先から15時間先まで予測できるようになりました。このような最新の防災気象情報と、その活用について解説いたします。

SB
11 「地域における防災教育の実践」

地震・火山 防災計画 教 育

■一般社団法人 防災教育普及協会

本協会は、2004年から始まった内閣府(防災担当)防災教育支援事業「防災教育チャレンジプラン」10年の蓄積に基づき、防災教育・安全教育的有識者らによって2014年に設立されました。専門的知見に基づくセミナーやイベントの開催、児童生徒から民間企業まで幅広い対象への防災教育、教材・プログラムの普及啓発などを行ってしています。http://www.bousai-edu.jp/

SB
15 「インバウンド向け防災観光推進事業」における取組み

防災計画 教 育 国 際

■宮城県・仙台市

宮城県と仙台市では、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、県内の各団体が提供している多様な防災学習コンテンツを収集・整理し防災観光ツールを整備するとともに、国内外に向けて防災観光プログラムを発信する取り組み「インバウンド向け防災観光推進事業」を実施しています。本出展では、「防災+観光 BOSAI+Tourism」のウェブサイトに掲載しているコンテンツ等をご紹介します。

SB
04 防災減災の取組

地震・火山 防災計画 教 育

■宮城県多賀城高等学校

全国で2例目、理系学科としては全国初となる防災系専門学科「災害科学科」を開校し、様々な防災減災活動に取り組んでいます。防災減災のパイロットスクールとして、震災の記憶の伝承と災害への備えを探究するとともに、様々な方々と交流活動を行っています。

SB
08 緊急地震速報アプリ「ゆれくるコール」

地震・火山 災害情報 教 育

■アールシーソリューション株式会社

ゆれくるコールは緊急地震速報をお知らせするスマートフォンアプリです。地震の発生を通知する以外にも、様々な機能があります。
①ゆれの到達をカウントダウンでお知らせ! ②地震の詳細をアプリですぐに確認! ③体感したゆれを「ゆれ体感」で共有 ④地震の後は安否確認で家族の安否を確認 ⑤「+ソナエ」で防災知識もバッチリ身につく

SB
12 阪神・淡路大震災の経験と教訓を伝える
災害ミュージアム

地震・火山 風水害 教 育

■阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターは、1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災の経験と教訓を後世と世界に伝えるために開設された災害ミュージアムです。阪神・淡路大震災の記録をパネル等で展示し、実際に起きた災害を知っていただくことから、今後起こりうる災害への備えを促します。

SB
16 消防団を中核とした地域防災力の
充実強化のための消防基金の取組について

地震・火山 風水害 地域・共助

■消防団員等公務災害補償等共済基金(消防基金)

消防団員等公務災害補償等共済基金(消防基金)は、市町村に対して消防団員の損害補償や退職報酬金支給に要する経費を支払うほか、市町村に代わって被災団員やその遺族の福祉に必要な事業を行うとともに、自ら消防団員の公務災害防止のための事業を行っています。消防基金は、これらの事業を行うことで、消防団員が安心・安全に活動できる環境づくりをサポートし、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に取り組んでいます。

SB
18 地理空間情報を活用して大規模災害に備えよう

地震・火山 風水害 防災行政

■国土交通省 国土地理院

国土地理院は災害対策基本法に基づく指定行政機関に指定されており、災害の被害状況を迅速に把握し、関係機関や国民に情報提供する役割を担っています。今回の展示では、災害時の緊急観測をはじめ、陸域観測技術衛星(だいち2号)や国土地理院で運用する電子基準点網を利用した地殻活動の監視など国土地理院の防災活動についての紹介や、国土地理院が提供する防災に役立つ地理空間情報の活用について紹介します。

SB
19 最新型コンパクトマッサージャー
「エスコート・H」

医療・福祉

■株式会社メルシー

最新型コンパクトマッサージャー「エスコート・H」の体験ブースです。全身の血行促進、フットケア、むくみ予防・運動不足の解消など幅広くお使いいただけます。会期中はどなたでも無料でお試しください。ぜひお気軽に当ブースへお立ち寄り下さい。

SB
20 連合災害救援ボランティア 活動の軌跡

ボランティア 復旧・復興

■日本労働組合総連合会(連合)

連合は49の産業別組合と47都道府県の地方連合会からなる、約700万人の組合員を有する日本最大の労働組合の組織です。災害時には東日本大震災など、過去の災害の教訓から速やかに情報収集を行い、現地の諸団体と連携しながらボランティアを派遣するなど、復旧に向けた活動に貢献してきました。震災後は風化させない取り組みとして震災関連をテーマとする「絆フォーラム」を定期的に開催しています。

SP
02 日本災害医学会が主催する
災害医療研修および日本DMATについて

医療・福祉 救急・救助

■一般社団法人 日本災害医学会

日本災害医学会における災害医療対策に関する知見を紹介しています。特に、災害医療派遣チーム(DMAT)の活動、本学会が主催する災害医療に関連した研修コース、学会から派遣する災害医療チームの紹介を行います。今後発生する確率が高いと言われる、南海トラフ地震、首都直下型地震等への対応のため、日々研修・訓練を行っています。さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み等の紹介を行います。

SP
06 和歌山県の防災対策と「稲むらの火」

地震・火山 防災行政

■和歌山県

和歌山県では、「災害による犠牲者ゼロ」を実現するために、様々な防災・減災対策を実施しています。具体的には、緊急避難先安全レベルの設定、防災ポータルアプリ「和歌山県防災ナビ」の配信、体験学習を通じた防災啓発事業「出張減災教室」などのソフト対策と「津波から」逃げ切る「支援対策プログラム」に基づく、避難路や避難施設、堤防の整備などのハード整備の両面で対策を進めています。

SP
10 災害医療と医師会

地域・共助 医療・福祉 被災者支援

■公益社団法人 日本医師会

我が国の大規模災害では、多職種連携による災害医療が不可欠です。平時から、災害医療に関する教育・研修体制や、かかりつけ機能を中心とした地域の関係者間の連携が構築されていれば、災害時被災者の生命・健康を守ることにつながります。そうした「災害への備え」に向けた取組こそがソフトパワーによる最大の災害対策と言えます。医師の団体である医師会による取組のご紹介や、地域連携の重要性をご説明します。

SP
03 防災活動を進める林士連!

風水害 ボランティア 復旧・復興

■(一社)日本林業土木連合協会

林士連は、全国の14地方協会及び地方の企業を会員とした連合会であり、国有林野地域の林業土木事業(治山、林道及び災害復旧等)を実施することを通じて、国土及び地球環境の保全並びに林業土木事業の発展に寄与する活動を行うと共に、各種の防災活動の推進にも努めています。具体的には、防災ボランティア協定に基づく災害調査、迅速な被災地への支援、ボランティアによる自主的な社会貢献活動などが挙げられています。

SP
07 グローカル・モニタリング・システムの構築による
安全・安心な社会への貢献

科学・技術 災害情報

■東海大学 グローカルモニタリングプロジェクト

東海大学では平成28年度より、文部科学省私立大学研究ブランディング事業に選定された「災害・環境変動監視を目的としたグローバル・モニタリング・システムの構築による安全・安心な社会への貢献」というテーマのもと、安全・安心に関わる活動に取り組んでいます。本展示では、本取組の一環で開発・運用を進めている「ツイッター」を利用した災害情報共有システム「ツイッターを利用した安否確認システム」を紹介いたします。

SP
11 「東北太平洋沿岸等における
観光復興対策事業」における取組み

教 育 復旧・復興 国 際

■青森県、岩手県、宮城県、福島県、仙台市及び東北観光推進機構

青森県、岩手県、宮城県、福島県、仙台市及び東北観光推進機構が、東日本大震災からの復興状況や防災の取組み、観光の魅力等を発信し、東北太平洋沿岸地域の観光復興を目的として、外国人観光客の受入態勢整備やプロモーション、風評被害払拭に向けた調査や発信、震災の経験と教訓を語り継ぐ語り部ガイドの広域連携の推進等に取組んでいる「東北太平洋沿岸等における観光復興対策事業」についてご紹介します。

SP
04 災害時の食料はどうする?

自 助

■農林水産省

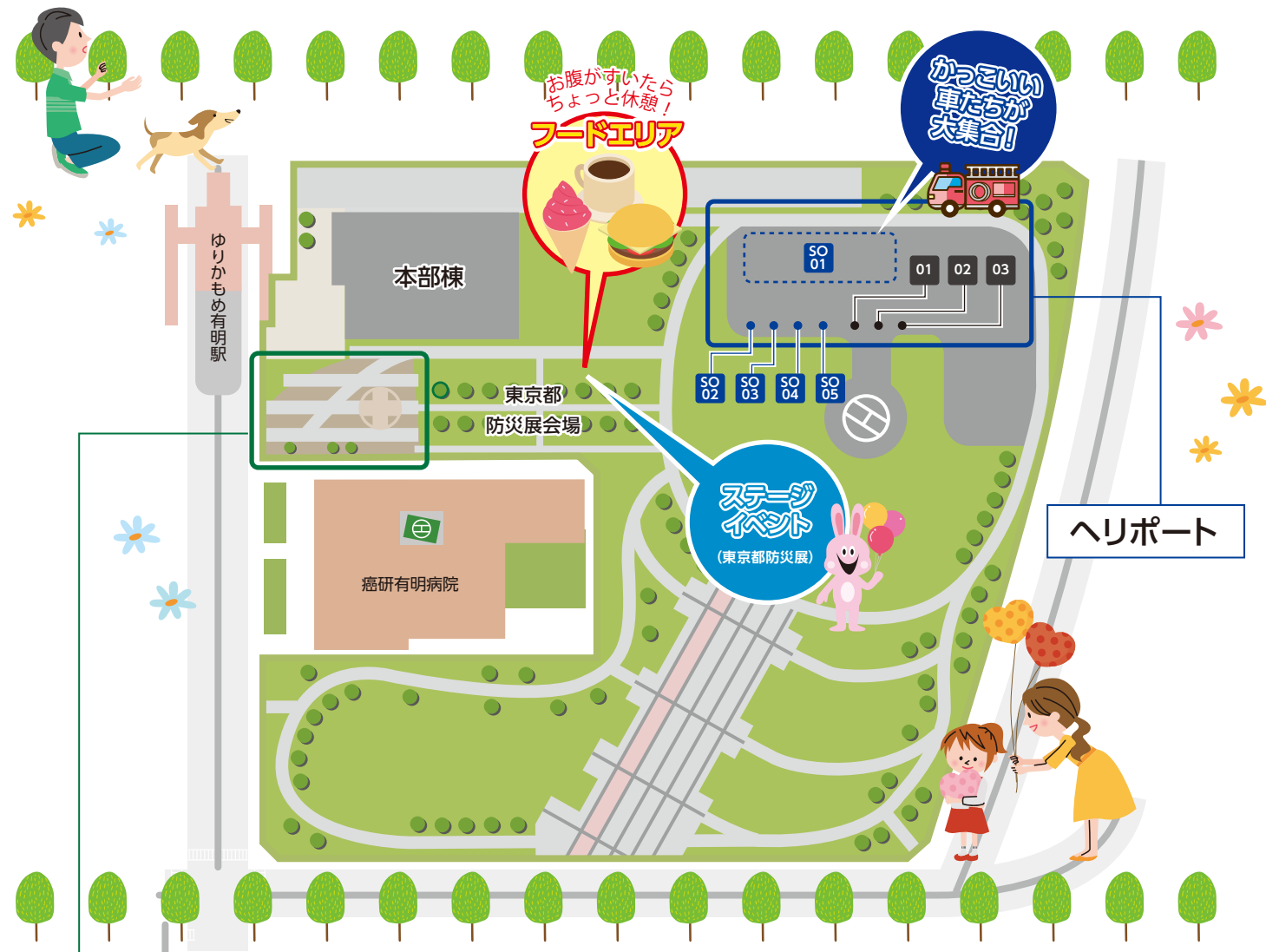
地震等の大規模災害時には、一時的に食料が手に入らなくなる可能性があり、家庭で最低でも3日分、できれば1週間分程度の備蓄に日頃から取り組むことが重要です。期間中は、家庭での食料品備蓄のポイントや備蓄に適した食品に関するポスターの展示や「緊急時に備えた家庭用食料品備蓄ガイド」等の配布などを行います。あわせて、農林水産省が行う災害対策、食料支援の取組みのポスター展示や資料配付を行います。

SP
08 防災環境都市・仙台

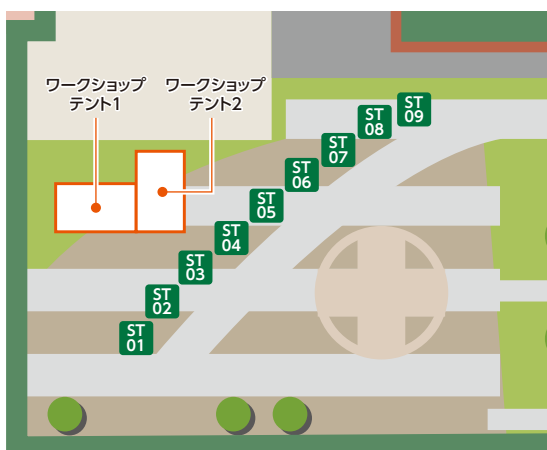
復旧・復興 防災行政

■防災環境都市・仙台(仙台市)

東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、将来の災害や気候変動リスクなどの脅威にも備える、しなやかで強靱な「防災環境都市づくり」を仙台市では進めています。「杜の都・仙台」の豊かな環境を基本としながら、インフラやエネルギー供給の防災性を高める「まちづくり」、地域で防災を支える「ひとづくり」を推進し、市民生活や経済活動の安全・安心や快適性を高い水準で保つための取り組みをご参加の皆様にも幅広くご紹介します。



エントランス



出展車両



ほかにも
いろいろな
車がくるよ!

ステージイベント (東京都防災展)



Dr.ナダレンジャーの 防災科学実験ショー

Dr.ナダレンジャーが、様々な
自然災害の現象をわかりやすく、
楽しく解説!



防災忍者なりきり体験

忍者服を着て、防災のヒントを
学ぶ修行にチャレンジ!
※各回開始15分前よりインフォメーションにて整理券配布

実施日時:
13日(土)①12:00~②13:30~
14日(日)①12:00~②13:45~



ST 01

防災・救命シェルターCL-HIKARI

地震・火山

風水害

自 助

■株式会社光レジン工業

FRP加工、強化プラスチック加工、カーボン加工及びガラス繊維のパイオニアとして受注品の製造を行うとともに弊社独自製品として防災・救命シェルターCL-HIKARIを開発・製造・販売及び設置しております。公助による防災対策が整備される中において、避難完了時間内に避難を完了できない方々の「最後の砦」として防災・救命シェルターCL-HIKARIを提供しております。

ST 02

災害に強い浄化槽システム

インフラ

環境・持続可能性

復旧・復興

■一般社団法人 浄化槽システム協会

浄化槽製造メーカーを主たる会員とし、浄化槽に関する普及啓発、技術開発及び技術支援活動を行っている非営利型の一般社団法人です。
(防災への主な取り組み紹介)・災害発生時における被災浄化槽の応急対応や復興に向けての技術支援・応急仮設住宅向け浄化槽の供給体制の確保・応急仮設住宅向け浄化槽の設計・施工・維持管理等についての情報提供

ST 03

障害者・福祉職員の震災復興パネル展 [3.11ソレカラ]

地域・共助

医療・福祉

復旧・復興

■一般社団法人 助けあいジャパン 静岡県富士市

当法人は宮城県にある障害者就労支援事業所で働く障害者の工賃向上を目的として設立された団体です。活動の一環として宮城県から「障害者震災記憶風化防止活動支援事業」を受託しています。具体的な活動内容としては、障害者および福祉職員への聞き取り等による震災の体験や記憶等を記録化し、ホームページやパネル展示等により県内外に発信することを通して、防災意識を高めるための取り組みを行っています。

ST 04

今日からはじめる地震対策 「みんなで取り組む室内安全の自助・共助」

地震・火山

自 助

教 育

■一般社団法人危機管理教育研究所

①実演小型振動台を用いた、すぐ取り組める室内被害軽減対策の実演・自宅にある備品を用いて書籍の落下を軽減する対策方法の紹介・特別な器具を使わずにキャスター付き家具の移動・転倒を軽減する対策方法の紹介②展示・パワーグラビダーで撮影した被災地の空撮画像・家庭・園・企業での備蓄を推奨するための防災グッズ・防災書籍③配布・家庭・企業に向けた防災普及啓発のためのパンフレットの配布

ST 05

災害対策関連サービスの展示・体験

地震・火山

風水害

被災者支援

■KDDI株式会社

災害時に安否確認を行うための「災害用伝言板サービス」や避難所支援としての「充電サービス」、「無料Wi-Fiサービス」等の展示を行います。更に、小型の携帯電話基地局を搭載した、ドローン基地局の展示を行います。この基地局は、上空から一時的な携帯電話サービスの提供が可能で、携帯電話からの電波を補足することでエリア内の端末数を確認できる機能も備えており、災害時の捜索救助活動への効果が期待されています。

ST 06

災害が起きた時に・・・私ができること、地域でできること

自 助

地域・共助

ボランティア

■日本赤十字社

災害からいのちを守るためには、けがの手当ての方法を学んでおくとともに、自分が住む地域の特徴をよく理解し、その地域にお住まいの方々とどのように協力して行動するかなどを、普段から考えておくことがとても重要です。このテントブースでは、防災・減災に関する知識・意欲・技術の向上に役立つ体験型プログラムをご用意し、皆様のご来場をお待ちしております。

ST 07

備蓄型組立式個室トイレ「ほぼ紙トイレ」

防災計画

地域・共助

被災者支援

■株式会社カワハラ技研

毎年のように発生している災害、その度直面するのが「トイレ問題」です。7割の自治体が「災害用トイレの備えは、想定避難者数に不足」という調査結果も（日本トイレ研究所）。今こそ官民が一体となって取り組むことが必要と考え、阪神淡路大震災、熊本地震の支援者からの要望で、今ある災害用トイレの役割をカバーできる、インフラがダメになっても直後直ぐに使える備蓄型組立式仮設トイレ「ほぼ紙トイレ」を商品化しました。

ST 08

災害用水洗トイレシステム 「iDotec Toilet(イドテック・トイレ)」

地震・火山

地域・共助

被災者支援

■大樹環境システム株式会社

阪神大震災、新潟中越地震、東日本大震災そして熊本地震と、せっかく助かった命もその後の避難所生活の中で、トイレが使えない、あまりにも汚くて使いたくない等でトイレを我慢し、水分を取らない、動かないことなどにより多くの方がお亡くなりになっています。「災害用水洗トイレシステムiDotec Toilet(イドテック・トイレ)」は、避難時にも通常とほぼ変わらない綺麗で清潔・安心なトイレ環境をご提供します。

ST 09

熊本地震への対応検証と復旧・復興の状況

地震・火山

復旧・復興

防災行政

■熊本県

平成28年熊本地震において、全国各地から多大なる御支援をいただき、感謝申し上げます。熊本県では、熊本地震への対応に関する検証を実施するとともに、得られた教訓を全国で共有し、今後の大きな災害に備えるため、熊本地震デジタルアーカイブサイトによる情報発信を行っています。今大会では、ドローンによる空撮映像の放映や写真パネルの展示を行い、熊本地震による被害の実状や復旧・復興の様子についてお知らせします。

SO 01

消防車大集合！～VR防災体験車で最新の防災体験をしてみませんか？～

救急・救助

防災行政

■東京消防庁(全国消防長会)

各種消防車両を展示するほか、はしご車の体験搭乗や最新のVR防災体験車による防災体験など、大人から子どもまで楽しみながら防災について学べる展示内容となっています。車両展示のほかに音楽隊・カラーガード隊による演奏・演技も実施する予定ですので、防災体験に合わせて、是非楽しんでみてください。

SO 02

地震体験(3次元地震装置搭載地震体験車)

教 育

防災産業

■飛鳥特装株式会社

過去の大地震、そして今後予測される地震、それらの揺れを経験し、万全の備えを。飛鳥特装の地震体験車は、様々な地震動を再現し、過去に発生した大地震をももちろん、未来予測されている地震動、震度段階にあわせて揺れも再現し、地震に備える心構えを身につけて頂くに最適です。

SO 03

みんな元気になるトイレ (災害派遣トイレネットワークプロジェクト)

防災計画

地域・共助

被災者支援

■一般社団法人 助けあいジャパン 静岡県富士市

全国の1,741市区町村が1台ずつトイレトレーラーを常備し、自然災害が起きた地域にすぐに駆けつけることができたなら、トイレ不足を大きく軽減することができます。東日本大震災、熊本地震で災害支援情報を発信してきた助けあいジャパンが推進する「災害派遣トイレネットワークプロジェクト みんな元気になるトイレ」は、助けあいのネットワークをつくり、災害大国日本の強靱化を進めていきます。

SO 04

薬剤師会 モバイルファーマシー展示

地域・共助

医療・福祉

被災者支援

■公益社団法人 日本薬剤師会

モバイルファーマシーはキャンピングカー等を改造した、薬局機能を搭載した災害対策医薬品供給車両であり、電力や水の途絶えた被災地の医療救護所等で自立的に調剤業務と医薬品の供給を行うことができます。災害発生時に被災地で活動するモバイルファーマシーを是非、ご覧下さい。

SO 05

車載型基地局の展示

地震・火山

風水害

被災者支援

■KDDI株式会社

KDDIでは、災害対応を行う車両として、災害等で無線基地局や通信回線が損傷を受けた場合に被災地へ移動して、非常用の携帯電話基地局としてサービスを提供する車載型基地局を保有しています。さらに長時間の停電に備え、無線基地局に電力を供給する移動電源車を保有しています。今回はこれらの車両の中から携帯電話基地局の代替となる車載型基地局の展示を行います。

東京都防災展 車両展示

01

ポータブル衛星車

■(株)NTT東日本

02

機動車とオートバイ

■自衛隊東京地方協力本部 江東出張所

03

レスキュー車

■警視庁

フードコート

おいしいものたくさん!

BUGRA

ケバブ・ロングポテト etc.




アジアンタワン

ガパオライス・グリーンカレー etc.




ミッキーフードサービス

ソフトアイス・肉巻きおにぎり etc.




ヴェルデ ウルバン

チーズバーガー・パステウ etc.




復興応援グルメ (東京都防災展)

東日本大震災などの被災地の郷土料理を提供



みんなで学べる防災イベント

ぼう さい てん 防災展

2018 会場マップ

体感型防災アトラクション

緊迫した状況の中で様々なミッションに挑戦！
脱出ゲームの要素を取り入れた訓練を体験して、
災害時に役立つ知識を学ぼう。

実施日時：14日(日)

①10:30～②12:00～③13:30～④14:55～

*事前予約をされた方から優先的にご案内いたします。
*当日に参加をご希望される場合は、各回15分前までに、
インフォメーションでお申込みください(先着順)。



★印の場所にスタンプがあります

防災展インフォメーション

有明駅方面

(特非) 災害救助犬
ネットワーク



(一社)
日本損害保険協会

(公財)
東京都
都市づくり
公社

東京都
木造住宅
耐震診断
登録事務所
協議会

(公社)
土木学会

(福)
東京コロニー
東京都葛飾
福祉工場

災害復興
まちづくり
支援機構

(株)
NTT
ドコモ

NTT
レゾナント
(株)

東京ガス
(株)

(一社)
東京建設業
協会

(一社)
東京都地質調査業協会

(公財)
東京都
中小企業
振興公社

花 壇

花 壇

(一社)
防災
安全協会

東京都
総合
防災部

東京都
水道局

東京都
下水道局

東京都
建設局

東京都都市整備局

東京都福祉保健局

(一財)
日本気象
協会

災害救助犬訓練実演

実施時間

13日(土)

①10:00～②11:30～

③13:00～④14:30～

14日(日)

①10:00～②11:30～

③13:20～④15:10～



おきあがりこぼしの
絵付け体験をしよう!

福島県会津地方の縁起物である
起き上がり小法師に絵付けできます。

各日先着100名



※アトラクションやワークショップは、全て参加無料です。



(株) NTT 東日本
警視庁
自衛隊 東京地方 協力本部 江東出張所

東京消防庁音楽隊 カラーガーズ

実施日時: 13日(土) 10:30~



復興応援グルメ

被災地特産の
おいしいものを食べながら
復興を応援しよう!



防災展インフォメーションで
スタンプラリー、アンケート配布中

参加者には
オリジナルグッズを
プレゼント

*オリジナルグッズは
無くなり次第
終了となります。

フードエリア

ステージ

フードテント

＼ぼくたちにもぜひ会いにきてね!／



(特非) クライシス マップーズ・ジャパン
東京都 復興支援 対策部
★ 岩手県 ★ 福島県 ★ 宮城県 ★ 熊本県 ★ 愛媛県 ★ ツクモル

いざというときに役立つグッズを作ろう!

各先着150名

13日(土) お守り袋をデコレーションしよう

14日(日) シールを貼ってオリジナルホイッスルを作ろう





みんなで学べる防災イベント

ぼう さい てん
防災展

2018

— もしもにそなえて —

**入場
無料**

10月13日^土・14日^日

時間 10:00～16:00

会場 国営東京臨海広域防災公園

10/13^土

時間	ステージ	テントエリア	フードエリア奥
10:00	10:00～10:15 オープニング	10:00～ 災害救助犬訓練 実演	
			10:30～11:00 東京消防庁 音楽隊・カラーガーズ
11:00	11:00～11:40 可愛いキャラクターが ステージに登場!	11:30～ 災害救助犬訓練 実演	さわやかな演技で、 皆さまに防火防災を 呼びかけます!
12:00	12:00～12:30 防災忍者なりきり体験① 12:30～13:00 気象現象と災害のアニメ上映	地震などで行方不明になった人々を 優れた嗅覚を使って見つけ出すよ。 実際の災害救助犬の活動を見てみよう!	
13:00	13:00～13:10 可愛いキャラクターがステージに登場!	13:00～ 災害救助犬訓練 実演	
	13:30～14:00 防災忍者なりきり体験②	忍者服を着て、防災のヒントを 学ぶ修行にチャレンジ! ※各回開始15分前よりインフォメーションにて整理券配布	
14:00	14:00～14:30 気象現象と災害のアニメ上映	14:30～ 災害救助犬訓練 実演	
15:00	主人公の節子ちゃんと一緒に 気象現象と災害について学んでみよう!		
16:00			

10/14^日

時間	ステージ	テントエリア	そなエリア 本部棟
10:00	10:00～10:15 オープニング 10:15～10:45 防災アーティストによる演奏	10:00～ 災害救助犬訓練 実演	10:15～10:30 アトラクション①受付
11:00	11:00～11:40 Dr.ナダレンジャーの 防災科学実験ショー①	11:30～ 災害救助犬訓練 実演	10:30～11:35 体感型防災 アトラクション① ※事前申込優先
12:00	12:00～12:30 防災忍者なりきり体験① 12:40～13:20 Dr.ナダレンジャーの 防災科学実験ショー②		11:45～12:00 アトラクション②受付
13:00	13:45～14:15 防災忍者なりきり体験②	13:20～ 災害救助犬訓練 実演	12:00～13:05 体感型防災 アトラクション② ※事前申込優先
14:00	14:30～15:10 Dr.ナダレンジャーの 防災科学実験ショー③ 15:10～15:20 気象現象と災害のアニメ上映 15:30～16:00 防災アーティストによる演奏		13:15～13:30 アトラクション③受付
15:00		15:10～ 災害救助犬訓練 実演	13:30～14:35 体感型防災 アトラクション③ ※事前申込優先
16:00			14:40～14:55 アトラクション④受付
			14:55～16:00 体感型防災 アトラクション④ ※事前申込優先

※天候等により中止になるプログラムがあります。

主催:  東京都